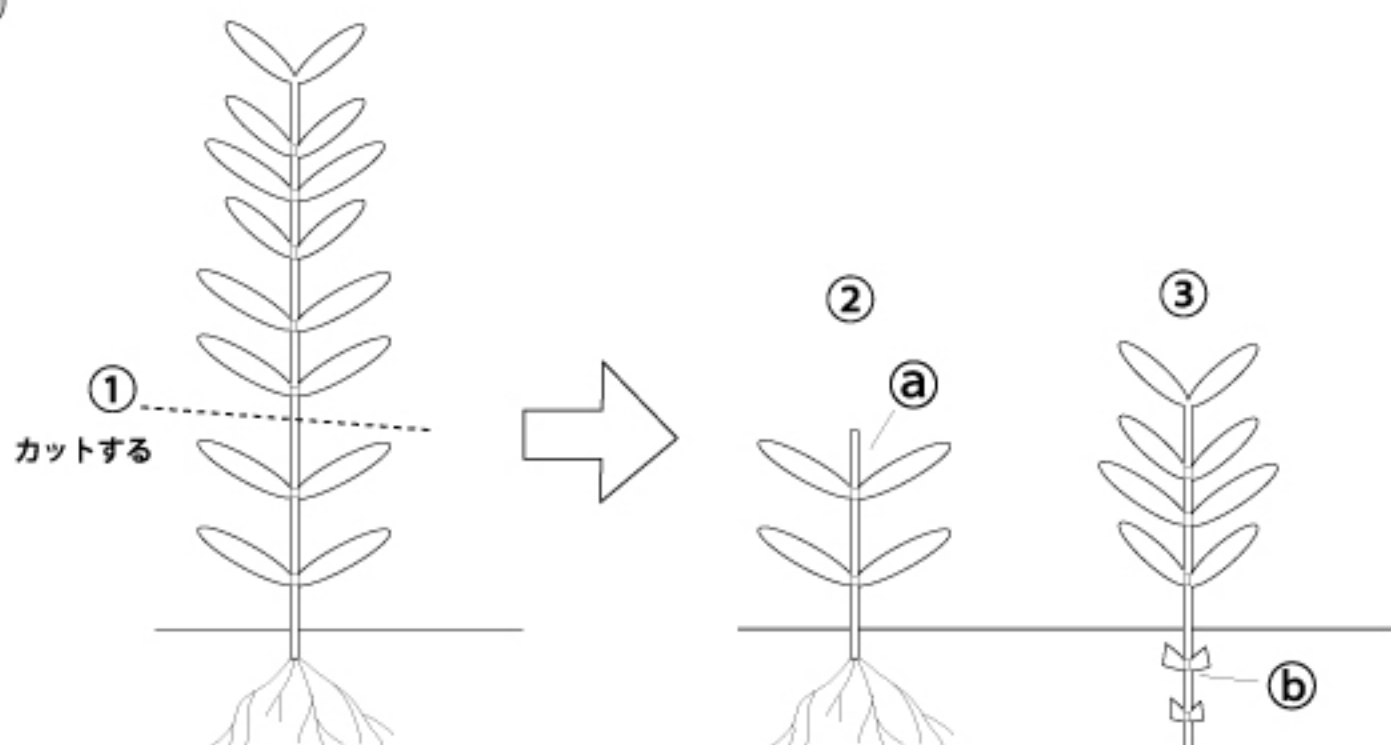


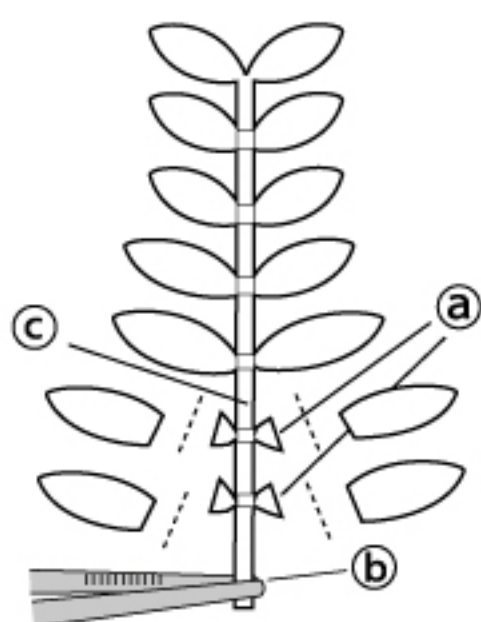
水草(有茎草)が成長して水面にまで届くと、水の上に水上葉を出したり、水面に水の澱みを作り、コケやモを発生させやすくなります。これらを防ぐために、伸びた茎をカットして形を整えたり(トリミングといいます)、カットした茎を植え戻して数をふやすこともできます(切り下しといいます)。

1、ローカット



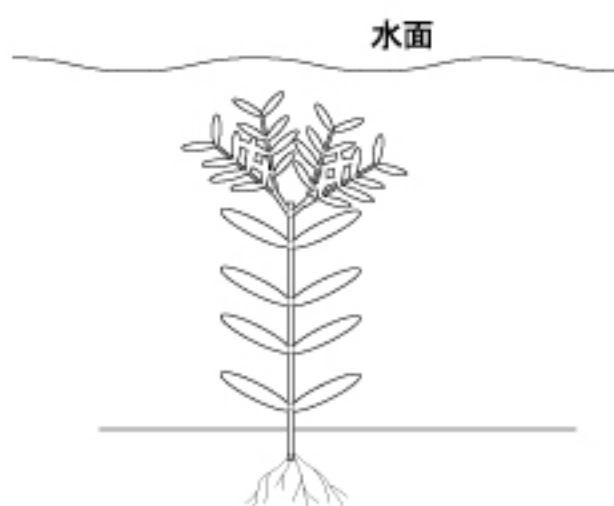
- ① 下から2～3節程度を残し、ハサミでカットする。
- ② 元の茎の残った節①から新芽が出、新しい茎や葉を展開します。
- ③ カットした茎は、水草の前処理①(下図参照)のように根になる節②を処理して植えこみます。

水草の前処理



- ① 下から1～2節の葉をハサミで簡単にカットして砂中に植えこんで下さい。・・・ ①(カットし残った葉は砂中でイカリの役割をします)
- ② 植えこみは指、またはピンセットで。ピンセットを使用する場合は、②の箇所をはさんで下さい。③の箇所をはさむと、やがて③以下の茎がとけてしまい、水草は浮いてしまいます。(ピンセットの細い先端には強い力がかかり、茎が傷むからです)。
- ③ ①の節からは根が出ます。水草の根は水槽が変わると新しくはえかわります。古い根が残っている場合も、根としては機能せず、新しい環境にあった新しい根を作りだします。
- ④ 水草の1本1本は弱いものです。群れをなすことにより、自分たちの周囲に自分たちにあった生息環境を作りだします。できるだけ密生するように植えていくと、以降の育ちがよくなります。

2、ピンカット



床屋さんが髪の毛の先端をカットするように、水面近くの先端部分をカットすると、光量の強さに応じて1節から新芽を何本も出させることができます。これはレイアウト上、実際の水草の本数以上のボリューム感を出すことができ、レイアウトのテクニックの1つです。

有茎草の維持

有茎草は一般に成長の早い種類が多いものですが、成長の早い種類は肥料要求量も高いのがふつうです。緑色の葉が白くなったり(白化)、黄色くなったり(黄変)は肥料不足症状で、放置すると枯れたり矮小化したりします。このような時には、水草専用のサブ肥料「エコβ(ベータ)」をおすすめします。

エコβは鉄、マンガン、マグネシウム等を含んだ微量成分肥料です。(チッソ、リン、カリウムのメイン栄養素は含まれておりません※)

効き目は3～4日であらわれ、6～7日ではっきりします。(葉の中央の主葉脈から緑色が回復し、ユックリ全葉脈に広がります)。

※メイン栄養素を含む肥料として、底床に直接埋めこみコケの抑制に効果の高いフローラカプセルがおすすめです。